

正の数と負の数 [数の大小]

数の大小

正の数と負の数の大小

- ・ 正の数は0より大きい
 - ・ 負の数は0より小さい
- 正の数は負の数よりも大きい！
- ・ 正の数は、絶対値が大きいほど大きい
 - ・ 負の数は、絶対値が大きいほど小さい

<例>

+3 と +1 の大小

絶対値は3と1

正の数は絶対値が大きいほど大きいので、 $+1 < +3$

-5 と -4 の大小

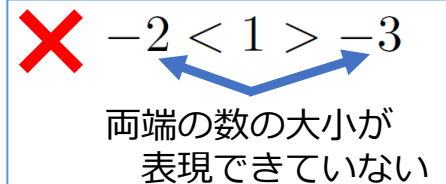
絶対値は5と4

負の数は絶対値が大きいほど小さいので、 $-5 < -4$

-3 と -2 と +1 の大小

$-3 < -2 < 1$ または $1 > -2 > -3$

3つ以上の数の大小を表す場合は、
不等号の向きを揃えること



<確認問題>

次の各組の数の大小を、
不等号を用いて表せ。

(1) $0, -1$

(7) $-81, -99$

(8) $-0.9, -1.2$

(2) $+3, 0$

(9) $+1.2, +1.1$

(3) $+4, -7$

(10) $-0.82, -0.99$

(4) $-100, +99$

(11) $-1, -6, +4$

(5) $+3.5, +\frac{9}{2}$

(12) $+1.8, -\frac{3}{2}, -1.1$

(6) $-\frac{8}{3}, -2.5$

(13) $-4, 0, -\frac{13}{3}$

正の数と負の数 [数の大小]

数の大小

正の数と負の数の大小

- 正の数は0より大きい
 - 負の数は0より小さい
- 正の数は負の数よりも大きい！
- 正の数は、絶対値が大きいほど大きい
 - 負の数は、絶対値が大きいほど小さい

<例>

+3 と +1 の大小

絶対値は3と1

正の数は絶対値が大きいほど大きいので、 $+1 < +3$

-5 と -4 の大小

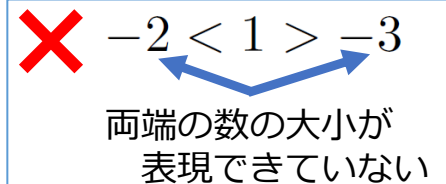
絶対値は5と4

負の数は絶対値が大きいほど小さいので、 $-5 < -4$

-3 と -2 と +1 の大小

$-3 < -2 < 1$ または $1 > -2 > -3$

3つ以上の数の大小を表す場合は、
不等号の向きを揃えること



両端の数の大小が
表現できていない

<確認問題>

次の各組の数の大小を、
不等号を用いて表せ。

(1) 0, -1
 $-1 < 0$

(2) +3, 0
 $0 < +3$

(3) +4, -7
 $-7 < +4$

(4) -100, +99
 $-100 < +99$

(5) +3.5, $+\frac{9}{2}$
 $+3.5 < +\frac{9}{2}$

(6) $-\frac{8}{3}$, -2.5
 $-\frac{8}{3} < -2.5$

(7) -81, -99
 $-99 < -81$

(8) -0.9, -1.2
 $-1.2 < -0.9$

(9) +1.2, +1.1
 $+1.1 < +1.2$

(10) -0.82, -0.99
 $-0.99 < -0.82$

(11) -1, -6, +4
 $-6 < -1 < +4$

(12) +1.8, $-\frac{3}{2}$, -1.1
 $-\frac{3}{2} < -1.1 < +1.8$

(13) -4, 0, $-\frac{13}{3}$
 $-\frac{13}{3} < -4 < 0$